

「いと高きところでは神に栄光があるように、

地の上ではみこころにかなう人々に平和があるように。」

和歌山バプテスト教会牧師・和歌山ひかり幼稚園園長 調みくに

「 メリークリスマス 」

こどもたちをいつもあたたかく保育してくださる先生方、先生方のお働きを心より感謝いたします。先生がたもイエスさま赤ちゃんの光をいただいています。

「メリークリスマス」とは、イエスさまを礼拝することはうれしいな楽しいなという意味です。この時期になると毎日、幼稚園ではクリスマスソングが聞こえてきますね。ページの役柄の発表もあり、こどもたちはなんだかウキウキしながら、嬉しいイエスさまのお誕生を待ちわびるアドベントを迎えるのです。

またクリスマス物語の1つひとつの出来事が神さまによって導かれていることをアドベントの時期に知らされます。羊飼いさんは寒い夜、嬉しい知らせを受けます。大変なお仕事だけど、イエスさま赤ちゃんのお知らせはそんな羊飼いさんに一番に届けられました。羊たちも羊飼いさんの声をきいて「メエ メエ メエ」とついていきます。博士さんは大切な宝物をもって一度は王様を訪ねますが、そのあと、もう一度星をめざして旅をします。大きなお星さんはみんなをイエスさま赤ちゃんのところに導く大切なお星さんです。お星さんの役がないと、イエスさま赤ちゃんのところにたどりつかないのです。天使も神さまからのことばを伝える大切な役割があります。ヘロデさん役は「嫌だー」という子もいますが、いつかヘロデさんにも神さまの愛が伝わりますようにと祈りながら演じるよう伝えます。ヨセフさん、マリアさんはいつもイエスさまのそばにいてうれしいですね。宿屋の人もイエスさまのお母さんとお父さんをとめてくれてありがとうございます。こえが聞こえます。

そしていつも心があらわれる瞬間、野原で羊の番をしている羊飼いさんたちに大勢の天使たちがあらわれ、「いと高きところでは神に栄光があるように、地の上ではみこころにかなう人々に平和があるように。」という場面です。自信をもってどうだと伝えてくれるこどもたちに思わず涙がでます。特に今、世界が混沌としている中、キリスト教保育の大切さを身にしみて感じます。こどもたちが「私たちの平和はここから出発するんだよ」とイエスさま赤ちゃんを囲んで私たちに伝えてくれるすてきなクリスマス。私たちは「アーメン」とこたえて世界中に「主の平和」があるようにと祈りながら過ごしたいと思います。そして保育の現場で働かれている一人ひとりの先生にもイエスさま赤ちゃんの小さいけどあたたかい光が与えられていることを喜びあいましょう。そして、まるでイエスさま赤ちゃんをかわいいね、というこどもたちのように、一人ひとりを「あなたは大切だよ」と伝え祈りながら育てるキリスト教保育の業を担っていきましょう。

大丈夫！主が私たちと共にいますと約束してくださっていますから。

「園と教会が協働する『キリスト教全人教育(保育)』」

常盤台めぐみ幼稚園 園長 友納靖史

「めぐみ幼稚園はナイ・ナイ園と呼ばれていますよ」と十年程前、ある園児保護者よりお聞きしました。確かに、給食はない、園バスもない、制服もない…、都内他園のトレンドには乗り遅れていると。ところが新型コロナ危機を迎えた昨今、各家庭で作る安全なお弁当、接触を避けて各家庭が送迎することを好む保護者も増え、時代の価値変動には驚かされます。「平安の祈り」(R.ニーパー)のように、変えるべきものと、変えてはならないものとを識別する知恵を与えてくださいと祈りつつ、教会附属から学校法人化し、この園は再スタートしました。

当然のことですが、キリスト教保育のスキルは幼稚園教諭資格を持つ先生方に、牧師園長(牧師の“延長線上”職)は太刀打ちできません。しかし牧会的(全人<格>的)な視点から共に協働し、健全な園と教会のコミュニティ形成に深く関わる責務と使命が託されていると信じています。玉川学園や自由学園、また近年文部科学省が推奨する国際バカロレア教育で使われる「全人(ホリスティック)教育」と、ある部分は重なりつつも、キリスト教会が目指すものとは似て非なるものがあります。しかしキリストの愛と信仰に基づく「全人教育(保育)」の本質を学び、今こそ園と教会が共に歩む重要性を強く感じています。

日本の若者たちは海外と比べ「自己肯定感・Self(セルフ)-(・)esteem(エスティーム)」が低く、それをどう高めるべきかの書籍論文類は巷に溢れています。しかし的を得たものは殆どなく、その多くが「自己効力感・Self(セルフ)-(・)efficacy(エフィカシー)」という「何かが出来る(to do)」で自己意識を高めようとする的外れな論点に終始していることは残念でなりません。その点、キリスト教は「神は愛なり」と宣言し、ひとり一人が神に愛され、命を与えられ、生かされていることに価値があるとの聖書信仰に基づく教育(保育)が可能です。つまり昨今、幼児期に不可欠と言われる「非認知能力」の育成の要となる自己肯定感、いや「自己“存在”感」を子どもたちと大人にも注ぐ力を福音は秘めているからです。

ユネスコ「21世紀教育国際委員会」が『学習：秘められた宝』において学習の四本柱を掲げています。①Learning to know(「知る」ことを学ぶ) ②Learning to do(「貢献する」ことを学ぶ) ③Learning to live together(他者と「共に生きる」ことを学ぶ)。そして④Learning to be(「人間として在る」ことを学ぶ)です。その最も基盤となるのが④の「to be 在る」、つまり「わたしとは何者か」を正しく知ることが全ての学習意欲と動

機、生きる力の根底に置かれます。新渡戸稲造が「to do である以上に、to be であることこそ大切だと知れ(to know)」と語ったように、キリスト教教育(保育)の基盤は、「在ってある(I am that I am)」お方(出エジ 3:14)を信じる信仰、つまり不変の存在である神によって愛され、人間は弱き罪人でありながら、御子イエスの十字架の犠牲により罪赦されて、永遠の命を得る存在へと生まれ変わる信仰と希望です。

これまで関わった園と教会では全人的苦痛とケアの牧会的視点を各形成に取り入れています。それは個々人の身体的、精神的、社会的な全人格を深く理解し関わる大切さと共に、何よりも『わたしという存在』の確かさ、つまり霊的信仰(信頼)形成の確立に寄り添う働きだからです。課題多きこの世界で、自らの存在の不確かさと痛みを抱えた(将来抱える)子どもたちに、「いかなる状況でも神はあなたと共におられ、導き、見放されない」と福音の宣教と共に、幼稚園での礼拝と保育でも繰り返し語り関わる教育活動が、本来の「キリスト教全人教育」の支柱です。昨今、認知能力(学習・体育・音楽など技術<to do>を身に着ける)に力を入れる園は多くあります。しかし、この驚くべき福音の素晴らしさと喜びを知らされている保育者(園教諭と牧師園長共に)は、幼児期に最も大切な教育的使命こそ、「あなたは神によって『在(あ)る：存在している』」と実感できる環境を整備することではないでしょうか。

「あなたは愛されるため生まれた」と、お子さんだけではなく、「私もそうだった」と信じる信仰告白へと導かれた卒園児保護者が今月受浸予定で、園と教会は共に喜びに満たされています。これからもこの園は、目に見える形では「ない・ない園」と言われ続けるかもしれませんが、神さまの目には「ある・在る園」とされていることを喜び、園と教会が共に全人的視点で教育と宣教のビジョンを共有し、協働したいと願っています。

お知らせ

・日本バプテスト保育連盟HPを立ち上げております。
URLは <https://bahoren.com/> です。ご覧いただければ幸いです。
右記のQRコードからもHPへ移動することが出来ます。

・8月26日(金)2022年度第2回日本バプテスト保育連盟設置者園長協議会(Web)を開催しました。当日は、16園から23名にご参加いただき、大井教会付属あけぼの幼稚園園長・大井バプテスト教会牧師・日本バプテスト連盟理事長 加藤誠先生から「教会の宣教と幼稚園・保育園のあり方」と題して発題を頂きました。

発題のあと、グループに分かれ、園の課題やキリスト教保育について話し合う時を持ちました。参加いただいた皆様、心より感謝いたします。

今年度中にもう一度、設置者園長協議会(オンライン)を開催する予定です。
その際には、教会の方々もご参加いただけたら幸いです。

「愛されるため」生まれた喜び・「愛する」使命を注がれる園として

1949年に板橋区で開拓を開始した常盤台教会が1965年、地域社会に貢献する働きとして幼稚園を創設しました。教会附属園の歩みを続けていましたが、昨今の教育環境の変化の中、数年の熱い議論と検討を重ね、学校法人となっても教会が共にその使命を担い続ける総会決意をなし、2018年より新たな歩みが始まりました。現在85名の在園児、その家族の方々へのキリスト教全人教育を基盤とし、生涯を健やかに歩むため、幼児期に必要なキリストの愛と希望を注ぐことを願い、教会全体の祈りに支えられています。副園長・助川賀子姉を中心に専任職員7名(内5名教会員)と非常勤18名が与えられていることは大きな祝福です。日々の「礼拝」を中心に、賛美と音楽に溢れるバランスのとれた自由遊びと共同保育と共に、この数年「コーディネーショントレーニング」など幼児期に相応しい身体的体幹を整えるプログラムなども取り入れています。特に「礼拝」を豊かにすることに力を注ぎ、創立以来続けている保護者と共に守る「水曜礼拝」(コロナ前まで毎週。現在二週間に一度。集えない方のため同時映像配信有)には、再び在園のお母様方とOGの聖歌隊が賛美を奉げ、月一度は園児との合同礼拝にも多くの保護者が集っていることは恵みの一つです。12年前より、2歳児クラスを毎週二回開催し、そこに集う子どもたちの大半が入園につながり、預かり保育(朝7時半～9時。午後2時～6時半)を数年前に整えて以来、入園希望者が増えたことは、それらを支える献身的教職員・補助教員の祈りと連携なしにはできない働きです。卒園後も教会学校へ繋がり続けることが最大の祈りですが、新型コロナ危機を迎え、この数年、教会は幼稚科・小学科とそれぞれYoutube配信だけの時も続き(10月より対面再開)、散らされた卒園児を再び教会へ招くことが園と教会共通の祈りです。



園長・理事長 友納靖史



園児と保護者合同の水曜礼拝
(今年十月)保護者聖歌隊
「グレース・アソシヤル」の賛美と共に



コロナにより年長「お泊り保育」の代わりに
二日間「特別サマープログラム」開催(八月)